

2026 0130
CE-MVC研究会
メンバーミーティング

1月30

MVCmembers # 85 メンバーミーティング「MIデータ活用について」

- **【趣旨】**近年、サーキュラーエコノミーの実現に向けて、資源の高効率利用と環境負荷低減を両立する技術が求められています。中でも、マテリアルズ・インフォマティクス（MI）は、膨大な材料データを活用し、素材開発やリサイクルプロセスの高度化を加速させる革新的手法として注目を集めています。本ミーティングでは、MIデータ活用の最前線で活躍する日立製作所および富士通の専門家をお招きし、循環型社会の構築に向けたMIの可能性と実践事例についてご講演いただきます。持続可能な社会の実現に向けた知見を深める貴重な機会となります。
- 日立 山本様：再生プラスチックの活用ニーズは上昇する一方、需要側の要求物性とのギャップが採用の壁となっています。日立は「再生材マーケットプレイス」で再生材情報を充実させ、さらにMaterials Informatics（MI）を活用して需要仕様に合わせた再生材・バージン材・添加剤の配合をデータに基づき提案することで、需要側と供給側のマッチング促進を目指します。本取り組みの有効性検証（PoC）として、品質分析とMIによる配合レシピ提案機能の検証をトーエイ株式会社と開始しました。
- 富士通 溝渕様：富士通におけるサーキュラーエコノミーの取り組み及び、そのキーとなる素材開発において注目されている「マテリアルズ・インフォマティクス」の取り組みについて、最先端のAI×コンピューティング技術を含めご紹介する。

2月16

HALADAの資源セミナー「これからの日本を考えるための、いくつかの事実」

【趣旨】 「量を追わない経済」への静かな転換が、日本の産業構造の深層で進行しています。完成品の輸出から、工程を支える装置・部材・材料・知見の提供へと重心を移す日本経済。その変化は、統計や報道には現れにくいものの、確実に産業の競争力の源泉となっています。本セミナーでは、こうした構造変化を「これからの日本を考えるための、いくつかの事実」として整理し、現在起こり始めているあらたな経済像を描き出します。

特に、資源問題に関しては、従来の「量や質の提供」を追いその主導権を足なっていく例に対して、「売り切る」のではなく「信頼をつなぐ」ことで世界をリードしている例とそのここ10年の重大な変化をレアアース、インジウム、タンタルなどの例で見えていき、「工程知」と「物質知」を結びつけ安定した稼働・操業を保証する鍵としてのTrusted Process Nodesの形成が大きな役割を持っていることに光を当てます。

これは、日本の製造業の国際的生き残りの視点だけでなく、信頼と持続可能性をバリューネットワークで形成していく、これからの産業構造の礎と成るでしょう。2026年のはじまりに、私たちの足元と未来を見つめ直す対話の場として、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2026年2月16日（月）13時30分から17時 ハイブリッド方式（現地およびZoom参加料金 5000円）

【プログラム】 13:30-17:00 セミナー講師：原田 幸明（CEMVC研究会 代表理事）

これからの日本を考えるための、いくつかの事実

1. 「完成品国家」から「工程国家」への静かな転換
2. 工程支配型輸出の実像と中小企業の新たな役割
3. 見えにくい競争力——「問題が起きないこと」の価値
4. レアメタルと工程知の交差点
5. 「量」ではなく「成立条件」を支える経済構造とは

3/26 ここまでできたLiB処理技術

- エンビプロ : 朴氏
エンビプロにおける、最新のリチウムイオン
バッテリー処理技術
- 原田
ブラックマスの行方とLiBリサイクルの世界
動向
LiB処理で取り出されるブラックマスと呼ば
れる廃電極物質などのマテリアルフローを明ら
かにし、世界のLiBリサイクル動向について述
べる

4月 自動車加工スクラップの 成分活用高度リサイクル

- 前田製作所 丹羽様
前田製作所の取り組みと展望
- 東北大学 松八重研究室
希少金属成分活用鋼材リサイクルの意義と必要成

4-5月 フィジカルAI

- 野村総研 樹 デンソーのフィジカルAIの取り組み
- 早稲田大学 福重 サーキュラーエコノミー絡み
みたフィジカルAI

これからの日本を考えるための、いくつかの事実

— 産業・資源・信頼から見た、日本の現在地 —

日本は本当に衰退しているのか。

完成品輸出は減ったが、日本の産業は別の形で世界を支えている。

価格や量ではなく、「**止まらないこと**」「**壊れないこと**」を価値にする構造へ。

本稿は、すでに始まっているこの変化を、事実と構造から整理する試みである。

- ・なぜ日本の装置産業は、今も世界で不可欠なのか
- ・なぜ中小企業の価値は、統計に表れにくいのか
- ・なぜレアメタル戦略は「量」から「使い方」へ変わるのか
- ・なぜKPIでは、日本の強みが測れないのか

信頼が価値になる経済へ

日本の産業は、知らないうちに

「信頼駆動型産業」へと移行している。

壊れないこと

止まらないこと

使い続けられること

これらはコストではなく、競争力になっている。

生産と消費は、すでに同じ方向を向き始めている。

この視点は、以下の論考としても展開されています。

- ・信頼性駆動型ビジネス—壊れないことを売る経済
 - ・KPIからSPIへ—「社会に役立つ」を測る指標
 - ・サーキュラーエコノミー会計のすすめ
 - ・CEにおける新しいリサイクルとは
- いずれも、スローガンではなく「設計」として社会を考える文章です

読んでね

<https://circular-industries.net/>

「**CE視点・論点**」

※ 政策・企業・アカデミー・メディアの議論素材として自由に参照できます。

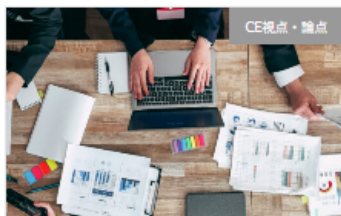


CEデータ

サーキュラーエコノミーについてのデータ集

READ MORE





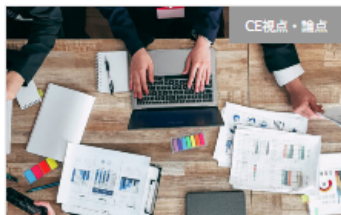
CE視点・論点

なぜ“循環しているのに産業が弱くなる”のか **新着!!**

1月 18, 2026

— 信頼駆動型産業として再考するサーキュラーエコノミー — なぜ“循環しているのに産業が弱くなる”のか — 信頼駆動型産業として再考するサーキュラーエコノミー — 1.サーキュラー産業モデルの概説サーキュラー [...]

続きを読む



CE視点・論点

信頼駆動型ビジネスの基盤としての「工程知」

1月 8, 2026

信頼駆動型ビジネスの基盤としての「工程知」 — 日本産業の競争力を支える不可視資産と政策的含意 — 序文 日本産業の競争力は、長らく技術力や品質の高さによって説明されてきた。しかし、国際市場で現在も日本の存在感が維持さ [...]

続きを読む



CE視点・論点

KPIからSPIへ

1月 1, 2026

— 持続可能性と日本の強みを「見せる化」する指標 KPIからSPIへ — 持続可能性と日本の強みを「見せる化」する指標 企業活動を評価する指標として、KPI (Key Performance Indicator) は長く用い [...]

続きを読む



CE視点・論点

信頼駆動型ビジネス——壊れないことを売る経済がつくる社会の方向性

1月 1, 2026

信頼駆動型ビジネス——壊れないことを売る経済がつくる社会の方向性
1.生産と消費を分けて考えられなくなった時代日本の経済を論じる際、生産と消費は長らく別々で考えられてきた。生産は国際競争力の開

検索

最近の投稿



CE視点・論点

なぜ“循環しているのに産業が弱くなる”のか **新着!!**

1月 18, 2026



CE視点・論点

信頼駆動型ビジネスの基盤としての「工程知」

1月 8, 2026



CE視点・論点

KPIからSPIへ

1月 1, 2026



CE視点・論点

信頼駆動型ビジネス——壊れないことを売る経済がつくる社会の方向性

1月 1, 2026



CE視点・論点

「なぜLCAは答えを出せないのか」——自由エネルギー・エントロピー・社会リスクから問い直す技術評価

1月 1, 2026



CE視点・論点

これからの日本を考えるための、いくつかの事実 — 始まっている「量を追わない経済」への日本からの静かな転換

1月 1, 2026



CE視点・論点

「CEコマースによるサーキュラー・エコノミー基盤の構築に向けて」——従来型ECを越える社会実装に向けた挑戦

くらしのサーキュラー相談室

サーキュラーエコノミー&広域マルチバリュー研究会では、身近なサーキュラー社会の実践の助けに、Repair, Reuse, Recycle, Responsible disposalのためのAIボットによる相談室を試しています。

写真や音声でも可能です。
お悩みのものの名前や写真と自治体名を入れるとアドバイスを答えてくれます



こちらから
修理相談、
リサイクル相談、
廃棄相談
に入れます

mail to: office@susdi.org



こわれちゃった
Oops Buddy



リサイクルバディ
Recycle Buddy



ゴミバディ
Gomi Buddy



Kowareta_Oops



RecycleBuddy



Gomi_Buddy

1月30

MVCmembers # 85 メンバーミーティング「MI データ活用について」

- 日立 山本様：再生プラスチックの活用ニーズは上昇する一方、需要側の要求物性とのギャップが採用の壁となっています。日立は「再生材マーケットプレイス」で再生材情報を充実させ、さらに**Materials Informatics (MI)**を活用して需要仕様に合わせた再生材・バージン材・添加剤の配合をデータに基づき提案することで、需要側と供給側のマッチング促進を目指します。本取り組みの有効性検証（**PoC**）として、品質分析と**MI**による配合レシピ提案機能の検証をトーエイ株式会社と開始しました。
- 富士通 溝渕様：富士通におけるサーキュラーエコノミーの取り組み及び、そのキーとなる素材開発において注目されている「マテリアルズ・インフォマティクス」の取り組みについて、最先端の**AI×コンピューティング**技術を含めご紹介する。
- 14:05-14:45 「MIによる需要仕様に合わせた再生材提案（仮）ー再生材マーケットプレイスの取引促進に向けた配合支援**PoC**の開始ー」
- 山本 光哉 株式会社 日立製作所 公共システム事業部 公共基盤ソリューション本部 デジタルソリューション推進部
- 14:45-14:55 休憩
- 14:55-15:35 「最先端コンピューティング×AIとマテリアルズ・インフォマティクスが拓くサーキュラーエコノミー」
- 溝渕 真名武 富士通株式会社 クロスインダストリーソリューション事業本部 Digital Shifts事業部
- 15:35-15:45 休憩
- 15:45-16:45 意見交換
- 16:45-17:15 Zoomを終了し現地会議室だけでフリートーキング

Rai (頼) ≡ *Qualifiability*

- 「量」 → 「質」 の提供 → 「頼」
- 「頼」：「工程知」 その工程を他との連関の中でとらえ、行程内に潜む小さな「想定外」に対処し、行程を持続させる力
- 主体は 「まち工場的機能」
- ちからは ネットワーク
- 支えるのは 「物質知」

Material Informatics

1月30

MVCmembers # 85 メンバーミーティング「MI データ活用について」

- 14:05-14:45 「MIによる需要仕様に合わせた再生材提案（仮）ー再生材マーケットプレイスの取引促進に向けた配合支援PoCの開始ー」
- 山本 光哉 株式会社 日立製作所 公共システム事業部
公共基盤ソリューション本部 デジタルソリューション推進部
- 14:45-14:55 休憩
- 14:55-15:35 「最先端コンピューティング×AIとマテリアルズ・インフォマティクスが拓くサーキュラーエコノミー」
- 溝渕 真名武 富士通株式会社 クロスインダストリーソリューション事業本部 Digital Shifts事業部
- 15:35-15:45 休憩
- 15:45-16:45 意見交換
- 16:45-17:15 Zoomを終了し現地会議室だけでフリートーキング